

第3次しろい健康プラン 令和4年度の実績・評価について

1 到達目標の達成状況

【到達目標—健康寿命を延ばす】

	策定時	目標値	実績				
	H29年度	R5年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
男性	80.7歳	81.3歳	81.0歳	81.0歳	81.5歳	-	-
女性	83.8歳	84.4歳	83.6歳	83.8歳	84.2歳	-	-

※表は、各年10月1日現在の健康寿命の値。

※健康寿命の算定には、算定年度の前後を含む3か年の数値が必要となるため、令和2年度の数値が現時点での最新値となる。

健康寿命については、男性女性共に微増し、男性については、令和5年度目標値を上回った。

2 健康増進計画の実施結果

1) 取り組み事業の実施状況 [詳細] 資料5 (P. 1~P. 4)

【集計】 令和4年度の事業実績 (重点的取り組み事業を含む)

	総計	「◎」 当初の目標値 以上に実施で きた事業	「○」 当初の目標値 どおり実施で きた事業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らなか った事業	「×」 実施できなか った事業	「-」 測定不能の事 業
事業数 (割合)	42 (100%)	4 (9.5%)	23 (54.8%)	14 (33.3%)	1 (2.4%)	0 (0%)

健康教育、健康相談、普及啓発及び情報提供は計画どおり実施でき、目標以上の結果となった事業が多かったが、健(検)診、予防接種などは、目標を達成できない事業が多かった。

(1) 重点的取り組み

ロコモティブシンドローム予防事業

重点的取り組み1	高齢者が自立して生活するため、成人期と高齢期の介護予防と健康づくりの充実					
ロコモティブシンドローム予防のため、さまざまな場や機会、運動や食事などの予防行動の実践を促します。						
事業計画：骨量測定者のうち、運動・食事の予防行動を実践している者の割合（20～59歳）						
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	-	40%	45%	50%	55%	60%
実績	34%	50%				
評価	-	◎				

実績：事業計画では、年間26回を目標のところ実績31回、延べ700人に実施

事業	回数(延)	人数(延)
ロコモティブシンドローム予防講座時	4回	38人
4か月育相談の来所者	12回	176人
骨密度測定会	5回	295人
なるほど行政講座	9回	147人
チャレンジパーソンスポーツ会場	1回	44人
合計	31回	700人

評価：実績が当初の目標値以上となった。

理由：骨量測定者に実施したアンケートの集計結果では、予防行動を実践している者の割合が目標値を上回り50%となった。

今後：若い世代への啓発や市民団体向けの講座を市内各地で行う取り組みを継続する。連携協定の締結を予定している民間企業からの職員派遣により実施体制を充実させていく予定。

乳がん検診・大腸がん検診

重点的取り組み 2		生活習慣病の発症や重症化を予防する取り組みの充実					
がんの早期発見・早期治療につなげるため、乳がん検診問診票の送付対象者の拡大や大腸がん検診の未受診者への再勧奨を実施します。							
事業計画：乳がん検診・大腸がん検診の受診率（40～69歳）							
		現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
乳がん	目標値	-	22.6%	23.6%	24.6%	25.6%	26.6%
	実績	20.5%	19.7%				
	評価	-	△				
大腸がん	目標値	-	11.2%	11.6%	12.0%	12.4%	12.6%
	実績	10.8%	8.5%				
	評価	-	△				

実績：乳がん検診 通常問診票を送る人に加えて前年度未受診だった人にも問診票を送付した。

大腸がん検診 40歳から69歳の検診申込者のうち前半日程の未受診者に後期日程の開始前にはがきで受診の再勧奨を実施した。

評価：実施したが、当初の目標値には至らなかった。

理由：再勧奨した受診者数は微増しているが、乳がん検診、大腸がん検診ともに、受診率は目標値には至らず、平成31年度の値まで回復しなかった。

今後：現在行っている受診勧奨の継続及び内容の改善や、市の公式 SNS、市民課のデジタルサイネージ（電子看板）を使用するなど周知方法の検討を行う。

（2）実施したが、当初の目標値には至らなかった事業「△」（重点的取り組みを除く）

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
1	特定健康診査	健診受診率：令和2年度、コロナ拡大のために集団検診を中止したことから、それ以降受診率が低下し目標値には至らなかった。未受診者に、電話による受診勧奨と、今までの受診歴や病院受診レセプトから、対象者に合わせた内容の郵便による受診勧奨を行い、受診率向上を目指していく。
2	後期高齢者健康診査	健診受診率：令和2年度、コロナ拡大のために、集団検診を中止したことからそれ以降受診率が低下し、目標値には至らなかった。令和5年度からは75～84歳の全ての被保険者に問診表を送付し、健診の周知対象者を拡大する。

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
8	肺がん検診	要精密検査受診率：計画どおり実施したが、目標値には至らなかった。令和2年度以降、感染症蔓延のため検診の受診率が低下し、要精密検査受診率も伸びなかったと考えられる。改善点としては、現在業務時間内に行っている対象者への架電時間を、時間外や土・日曜も実施する方向で検討する。また、受診確認の方法については、電話で連絡の取れない対象者に返信用紙を郵送し、紙面での確認を行うなど確認方法の検討を行う。
10	大腸がん検診	
11	乳がん検診	
12	子宮頸がん検診	
14	特定保健指導	指導実施率：計画どおり実施したが、保健指導の実施率が目標値には至らなかった。保健指導拒否も多く、目標値を達成できるかの精査と保健指導内容の検討を行っていく。
15	特定健診事後指導	糖尿病性腎症重症化予防対象者の医療機関受診率：受診を電話で確認するとともに生活習慣改善の取り組みを支援した。保健指導の拒否などから、目標値には至らなかった。現在は委託事業となっており、委託先の管理監督に努めていく。
		生活習慣病重症化予防対象者の医療機関受診率：結果の説明と医療機関の受診勧奨を計画どおり行ったが、連絡が取れず未把握の者も多く、目標値には至らなかった。受診者数は、レセプトを確認し、受診確認ができた人も今後実績に追加していく。
新4	後期高齢者健診事後指導	対象者の医療機関受診率：要医療値の人に、結果の説明と医療機関の受診勧奨を計画どおり行った。連絡が取れず未把握の者も多く、目標値には至らなかった。令和5年度から案内を送付する対象者を拡大し、対象者数を増やしていく予定。
31	高齢者の居場所や交流の場づくり	新規立ち上げを計画どおり実施しているが、コロナ拡大のため活動を閉鎖する団体もあり、目標値には至らなかった。今後も、楽トレ体操等の自主グループの立ち上げ及び継続支援を行う。
34	総合型地域スポーツクラブ	コロナの影響で減少した会員数は徐々に回復してきているが、目標値には至らなかった。引き続き広報やホームページなどを活用して周知していく。
35	子どもの定期予防接種	MR2期は目標値を達成できたが、MR1期は目標値には至らなかった。MR1期は、年度を越えて接種している場合があると考えられる。今後もハガキでの通知などを行い、未接種の人への勧奨を続けていく。
36	高齢者の定期予防接種	平成26年度から定期接種に位置付けられた予防接種で、既に自費で接種済の対象者もいると推測されるが、目標には及ばなかった。定期的に、広報で接種について勧めていく。
40	新型インフルエンザ等対策事業	訓練の実施については、国・県の実施がなかったため、市も実施しなかったが、新型インフルエンザ対応マニュアルについては、計画どおり各課へ依頼し修正等を行った。今後は、本来の

	連絡訓練等を実施するよう協力機関全体に投げかけを行う。
--	-----------------------------

(3) 実施できなかった事業「×」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
37	地域の健康づくり（地区活動）	取り組みとしては、白井なし坊体操の紹介や実施を行い、活用する学校や団体数は、計2小学校区となった。第3次計画より、啓発を充実させるために、新たに講座等を実施することも追加し、指標を見直したため、目標に対する実績がなかった。

2) めざそう値の達成に向けた経過 [詳細] 資料6 (P. 1)

【集計】 めざそう値の達成に向けた令和4年度の状況

	総計	「達成」 めざそう値を 達成している	「改善傾向」 現状値と比較し 3.0%以上改善 している	「変わらない」 現状値と実績値 との差が3.0% 未満である	「悪化」 現状値と比較し 3.0%以上悪化 している
めざそう値 (割合)	2 (100%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
代替項目 (割合)	18 (100%)	5 (27.8%)	1 (5.5%)	2 (11.1%)	10 (55.6%)
合計 (割合)	20 (100%)	5 (25.0%)	2 (10.0%)	2 (10.0%)	11 (55.0%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和4年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

(1) 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取組み	項目の種類	目標項目
1. 生活習慣の改善	(1) 望ましい生活習慣獲得のための情報提供及び行動化を促す取り組みの強化	代替項目	1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施していますかの設問に「はい」と回答した者の割合(回答者数/受診者数)
			現在、たばこを習慣的に吸っていますかの設問に「はい」と回答した者の割合(回答者数/受診者数)
			BMI値が25以上(肥満)の人の割合(40歳以上)(BMI25以上の人数/受診者数)
2. 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	(2) 幼児期から健康的な生活習慣を身につけられるような情報提供と支援の充実	代替項目	朝食を欠食する子どもの割合の減少(小学生・中学生)
			肥満の子どもの割合の減少(小学生・中学生)
			やせの子どもの割合の減少(小学生・中学生)

3. 生活習慣病の発症予防と重症化の予防	(1) 生活習慣病の発症や重症化を予防する取り組みの充実	めざそう値	精密検査受診率が90%以上のがん検診（国推奨5大検診）の増加
----------------------	------------------------------	-------	--------------------------------

3 食育推進計画の実施結果

1) 取り組み事業の実施状況 [詳細] 資料5 (P.5~P.9)

【集計】 令和4年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総計	「◎」 当初の目標値 以上に実施 できた事業	「○」 当初の目標値 どおり実施 できた事業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らな かった事業	「×」 実施できな かった事業	「-」 測定不能の 事業
事業数 (割合)	44 (100%)	6 (13.6%)	27 (61.4%)	8 (18.2%)	2 (4.5%)	1 (2.3%)

食育事業、相談事業、食生活改善推進員活動など、対象や定員管理でコロナ対策が可能な事業は、目標どおりもしくは目標以上に実施できたものが多くあった。一方、不特定多数や大人数が集まるイベントなどコロナ対策がしにくい地産地消関連事業は、中止などにより目標どおり実施できない事業が多くあった。

(1) 重点的取り組み

食育に関する新規啓発

重点的取り組み1	生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進					
ライフステージに応じた望ましい食事がとれるよう、新たにスーパーマーケットなどの販売店での啓発を行うとともに、ホームページやSNSなどを活用した啓発を拡充します。						
事業計画：食育に関する情報の新規啓発数						
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標	-	3回	3回	3回	3回	3回
実績	2回	3回				
評価	-	○				

実績：新規啓発を3回実施した。

	内容	数等
1	ライフステージ別の食事HP	9記事
2	生活習慣病予防の食事HP	1記事
3	後期高齢者健診結果通知への食事資料同封	1,400通

評価：当初の目標値どおり実施できた。

理由：ライフステージ別の食事HPでは、健康課のほか、保育園や小中学校に所属する

栄養士が所属する白井市栄養士連絡会と連携し、計画的に実施できた。

今後：ホームページは継続して掲載し、後期高齢者健診への資料同封は対象が多い案内通知（約 7000 通）に変更する。また、令和 5 年度から新たにスーパーマーケットなどの食品販売店での啓発を開始する。

しろい食育サポート店

重点的取り組み 2	まちをあげた食育推進の取り組み					
市民が自然に健康になれる食環境づくりの推進として、健康的な食に関する情報やメニューなどを提供するしろい食育サポート店の登録促進を行います。						
事業計画： しろい食育サポート店の登録店舗数						
	現状値 (H31 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
目標値	17 店舗	23 店舗	26 店舗	29 店舗	32 店舗	35 店舗
実績	-	32 店舗				
評価	-	◎				

※目標を達成している年度は、前年度の実績値+3 店舗を目標値として推進することとします。
→令和 4 年度の目標値：31 店舗

実績：計画以上に多くの店舗からの申込があり、32 店舗を登録した。

また、登録店舗の増加に伴い、店舗に設置してもらっている食育資料等の市民の持ち帰り数も、目標の約 1.4 倍（約 1,900 枚）となった。

評価：実績が当初の目標値以上となった。

理由：市内飲食店が参加する食品衛生講習会を活用した事業説明や広報・ホームページでの周知により、飲食店へ広く認知されたことが申込につながったと推察される。

今後：しろい食育サポート店の周知を継続し、健康的なメニュー提供の依頼や市が作成する食育資料等の充実を図る。

(2) 実施したが、当初の目標値には至らなかった事業「△」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
4	学校での食育啓発	コロナにより、給食センター主催の保護者試食会を計画通り実施できず、開催回数が目標値には至らなかった。今後、試食会の実施方法について検討していく。
12	各種料理等の教室事業	コロナにより定員を減らし、計画どおり実施したが、参加者数が目標値に至らなかった。令和 5 年度は、地域での食育事業の受講機会を拡充し、新たな地域住民の参加を促すため、健康課が運営する一部講座を、各センターと連携した市民向け講座として実施する。(No. 13 へ一部移行)
16	給食施設や学校での食育推進事業	計画どおり実施したが、スケジュールや栽培場所の調整ができない学校が 1 校あり、野菜の栽培体験の学校数が目標値には至らなかった。全校実施となるよう、今後も学校へ栽培体験の呼びかけを行う。
17	栄養・歯科口腔に関	計画どおり実施したが、参加者数が目標値には至らなかつ

	する高齢者向け講座	た。令和5年度は、楽トレ・脳トレ参加者が多い募集・集合型のいきいき夢教室を廃止し、新たな一般受講者を増やすため、地域住民が利用するサロン等、身近な場所へ管理栄養士が出向く方法へ変更して実施する。(No. 18へ統合)
事業番号	事業名	評価の理由・改善点
26	特定保健指導	計画どおり実施したが、保健指導の実施率が目標値には至らなかった。保健指導拒否も多く、目標値を達成できるかの精査と保健指導内容の検討を行っていく。
28	しろいの直売所マップ啓発事業	計画どおり実施したが、掲載店舗数が目標値には至らなかった。市内で直売を行っている生産者等に今後も声掛けを行い、マップ掲載を進める。
29	地域における農産物販売所づくり	計画どおり実施したが、農産物直売所及び移動販売車への来客数が目標値には至らなかった。今後、コロナにより中止した地産地消のPR活動(イベント等)を再開することで、来客数の増加を目指す。
39	食品衛生管理の普及啓発	計画通り実施したが、保健所主催の事業が一部廃止となったため、目標値には至らなかった。食品衛生組合等の飲食店への啓発は、保健所や食品衛生協会などが所掌していることから、今後、市との連携事業は廃止事業を除く事業数とした。

(3) 実施できなかった事業「×」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
6	市HPによる白井産農産物のレシピ	コロナにより、人が集まる機会やイベントの実施がなく、広くレシピ募集や発表等を行う機会がなかったため。今後は、感染症に影響されないよう工夫しレシピ掲載を行う。
30	農産物加工研究会への支援	コロナにより、各種イベントへの参加をしなかったため。令和4年度をもって団体が解散。(令和5年度より廃止事業とする)

(4) 評価不能の事業「ー」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
31	市民農園開設の支援	開設希望者への相談・問い合わせ体制は整っていたが、開設希望がなかったため。市民農園の開設支援について周知するとともに、開設希望者による相談・問い合わせに積極的に対応する。

2) めざそう値の達成に向けた経過について

〔詳細〕資料6 (P. 2)

【集計】 めざそう値の達成に向けた令和4年度の状況

	総計	「達成」 めざそう値を 達成している	「改善傾向」 現状値と比較し 3.0%以上改善 している	「変わらない」 現状値と実績値 との差が3.0% 未満である	「悪化」 現状値と比較し 3.0%以上悪化 している
めざそう値 (割合)	6 (100%)	4 (66.6%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)
代替項目 (割合)	21 (100%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	2 (9.5%)	14 (66.7%)
合計 (割合)	27 (100%)	7 (25.9%)	2 (7.4%)	3 (11.1%)	15 (55.6%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和4年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

(1) 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取組み	項目の種類	目標項目	
1. 食と健康づくりの推進	(1) 生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進	代替項目	嫌いな野菜が多いと回答した保護者の割合の減少 (1歳6か月児・3歳児)	
			朝食を欠食する子どもの割合の減少 (小学生・中学生)	
			朝食を抜くことが週3回以上ある人の割合の減少 (40歳以上)	
	(2) 食育による生活習慣病の予防及び改善	めざそう値	よく噛んで食べている子どもの割合の増加 (小学生)	
			代替項目	人と比較して食べる速度が速い人の割合の減少 (40歳以上74歳以下)
				BMI値が25以上 (肥満) の人の割合の減少 (40歳以上)
BMI値が20以下 (低栄養傾向) の人の割合の減少 (65歳以上)				
肥満の子どもの割合の減少 (小学生・中学生)				
やせの子どもの割合の減少 (小学生・中学生)				
2. 食を通じた	(1) 食を通じた	代替項目	子どもだけで食事をする人が多いと回答し	

コミュニケーション	コミュニケーションの推進	た保護者の割合の減少（3歳児）
-----------	--------------	-----------------

4 歯科口腔保健推進計画の実施結果

1) 取り組み事業の評価状況 [詳細] 資料5 (P. 10~P. 12)

【集計】令和4年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総数	「◎」 当初の目標値 以上に実施で きた事業	「○」 当初の目標値 どおりに実施 できた事業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らな かった事業	「×」 実施できな かった事業	「－」 評価不能の事 業
事業数 (割合)	33 (100%)	2 (6.1%)	17 (51.5%)	12 (36.4%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)

歯科健康教育事業、普及啓発事業などはコロナの影響で中止や縮小となることが多かったが、令和4年度は感染症対策を講じた上で目標どおりもしくは目標以上に実施できた。

目標値に至らなかった事業の過半数は歯科健診事業が占めており、いずれの事業も受診率（者）が目標値に届かなかったためであった。

(1) 重点的取り組み

歯周疾患検診

重点的取り組み 1	生涯を通じた歯科疾患重症化予防に対する取り組みの強化					
歯科疾患重症化予防のため、歯周疾患検診の受診率向上を図ります。						
事業計画：歯周疾患検診受診率						
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	-	4%以上	4%以上	6%以上	6%以上	6%以上
実績	3.0%	3.4%				
評価	-	△				

実績：コロナの影響により令和2年度・令和3年度に申込をしたが受診しなかった者に対し、令和4年度に受診可能とする救済措置を講じた。

	対象者	受診者	受診率
令和4年度	3,442人	118人	3.4%
救済措置	397人	41人	10.3%

評価：計画どおり実施し、現状値との比較では受診率は向上したが、目標値には至らなかった。

理由：コロナ前よりも向上したため、歯科口腔保健行動に対する関心は高まっていると推察されるが、目標値には至らなかったため。

今後：令和4年度より新たに歯周病と全身疾患の関係性についてのリーフレットを受診票と一緒に送付し、受診率向上を図っているが、今後、リーフレットをより見やすいものに刷新するなどし、更なる受診率の向上を図る。

後期高齢者歯科口腔健康診査

重点的取り組み2	生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能の向上に向けた歯の喪失防止の取り組みの充実					
生涯を通じた口腔機能の維持改善のため、新たに通いの場における支援などを実施します。						
事業計画：半年前より硬いものが食べにくいと感じている76歳の割合						
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	-	28%以下	28%以下	28%以下	25%以下	25%以下
実績	29.3%	27.4%				
評価		○				

実績：後期高齢者歯科口腔健康診査を実施

対象者	受診者	受診率
850人	109人*	12.8%

※109人に加え、令和3年度に受診できなかった者への救済措置として8人が受診。

新たに高齢者の通いの場において、口腔ケア講座を実施。希望者の相談を受けた。

実施回数	受講者	個別相談
5回	51人	5件

評価：計画どおり実施でき、目標値を達成した。

理由：オーラルフレイルという言葉が広く市民に浸透しつつあり、咀嚼や嚥下などの口腔機能の向上への関心が少しずつ高まってきていると推察される。

今後：引き続き広報や通いの場において、歯科受診行動の促進やオーラルフレイル予防について啓発していく。

かかりつけ歯科医の普及推進

重点的取り組み3	定期歯科健診受診率向上に向けた取り組みの充実					
歯周疾患の早期発見・治療のため、家族一人ひとりがかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けることを勧奨します。						
事業計画：3歳児でかかりつけ歯科医がある幼児の割合						
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	-	45%以上	45%以上	50%以上	50%以上	50%以上

実績	38.8%	41.1%				
評価		△				

実績：各種事業やSNSを活用し、かかりつけ歯科医をもつことを普及啓発した。

新たに歯周疾患検診受診票送付時に、かかりつけ歯科医をもつことを勧奨するリーフレットを同封した。

評価：計画どおり実施でき、現状値との比較では割合は向上したが、目標値には至らなかった。

理由：3歳児のむし歯率低下に伴い、幼少期からの定期歯科受診が定着されていないことで、かかりつけ歯科医をもつ幼児の割合が伸びなかったと推察される。

今後：SNSを活用した勧奨に加え、2歳児歯科健診においてかかりつけ歯科医をもつことを直接伝えるなどし、幼少期からの定期歯科受診の定着化を図っていく。

(2) 実施したが、当初の目標値には至らなかった事業「△」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
1	妊婦歯科健康診査	計画どおり実施したが、受診率と要精密検査者率が目標値には至らなかった。妊娠届出時の全数アンケートにて38.4%が妊娠前から定期歯科受診をしていることが分かったため、妊娠期の歯科受診そのものは実績値以上にされているものと考えられる。 引き続き母子手帳交付時や両親学級において妊娠期の歯科受診の大切さについて啓発し、受診を促していく。
2	1歳6か月児健康診査（歯科健診）	いずれの健診も受診率または受診者が目標値には至らなかった。
3	2歳児歯科健康診査	1歳6か月児健診と3歳児健診は法定健診のため受診率
4	3歳児健康診査（歯科健診）	100%を目標としているが、転出や家庭の事情により受診が難しいケースが一定数いるため目標値には至らなかった。
5	保育園歯科健康診査	2歳児歯科健診は目標値には至らなかったが県平均と比較すると高い受診率となっている。
9	後期高齢者歯科健康診査	広報やSNSの活用など、各世代に合わせた受診勧奨を行っていく。
8	歯周疾患検診	受診率と要精密検査者率が目標値には至らなかった。 令和4年度より新たに受診票と一緒に送付している「歯周病と全身疾患の関係性」についてのリーフレットより見やすいものに更新することや、日本歯科医師会監修の「健口チェック」アプリの利用を促し、自宅で手軽に自身の口腔状態を確認することにより口腔への意識の向上や健診受診の動機づけを図っていく。
12	保育園歯科保健指導	施設側の都合や、事業主担当職員の体調不良により、計画
19	子育て支援センターすこやか相談	当初の実施回数に達しなかった。 職員の代替え体制について検討していく。

16	いきいき夢情報教室	定員に対する参加率が目標値には至らなかった。 教室受講者の多くは、楽トレ・脳トレ参加者であり、一般受講者は少数となっている。新たな一般受講者を増やすため、地域の住民が利用するサロン等、身近な場所に出向き講話を実施する方法へ変更する。
事業番号	事業名	評価の理由・改善点
26	歯科口腔保健推進ボランティア育成	体調不良等の理由により、複数名の登録者が活動終了となり、保育園歯科指導が全3回中、2回の実施となったため、目標値には至らなかった。 人員の追加募集を行い、感染症対策に留意した上で活動の場を確保していく。
32	かかりつけ歯科医の普及推進	3歳児でかかりつけ歯科医のある幼児の割合が目標値には至らなかった。 近年の幼少期におけるむし歯率の低下に伴い、自宅でのケアが中心となり定期歯科受診まで結びついていないことが考えられる。子育て世代向けにSNSを活用した勧奨に加え、幼児健診の場においてかかりつけ歯科医をもつことについて直接保護者に呼び掛けるなどし、幼少期からの定期歯科受診の定着化を図っていく。

(3) 実施できなかった事業「×」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
13	児童生徒の歯科保健指導	歯垢染め出し実習における飛沫感染防止のため、実施を見合わせた。感染症対策に留意した上で、順次再開していく。

(4) 評価不能の事業「ー」

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
18	なるほど行政講座「歯っぴいスマイル講座」	実施体制は整っていたが、市民団体から実施依頼がなかった。関係課と協力し、事業の認知度を上げていく。

2) めざそう値の達成に向けた評価状況 [詳細] 資料6 (P. 3)

【集計】 めざそう値の達成に向けた令和4年度の状況

	総計	「達成」 めざそう値を達成している	「改善傾向」 現状値と比較し3.0%以上改善している	「変わらない」 現状値と実績値との差が3.0%未満である	「悪化」 現状値と比較し3.0%以上悪化している
めざそう値 (割合)	10 (100%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	3 (30.0%)

代替項目 (割合)	11 (100%)	2 (18.2%)	5 (45.4%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)
合計 (割合)	21 (100%)	5 (23.8%)	6 (28.6%)	5 (23.8%)	5 (23.8%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和4年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

(1) 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取り組み	項目の種類	目標項目
1. 歯科口腔保健の意識と生活習慣の改善	(2) 自ら進んで歯科口腔保健に関心を持ち、むし歯や歯周病予防に取り組む意識の向上	めざそう値	デンタルフロスや歯間ブラシを使用する人の割合の増加 (20歳以上)
2. 歯周疾患の予防	(1) 生涯を通じた歯科疾患重症化予防に対する取り組みの強化	めざそう値	60歳で未処置歯を有する人の割合の減少
		代替項目	妊婦歯科健診受診率の増加
	(2) 歯科疾患と全身の健康のかかわりについての普及啓発	めざそう値	40歳で進行した歯周炎を有する人の割合の減少
		代替項目	妊婦の進行した歯周炎を有する人の割合の減少

5 自殺対策計画の実施結果

1) 自殺対策計画の数値目標

【数値目標—令和2年から令和6年平均の自殺死亡率を12.3以下にする】

策定時	目 標	実 績				
		H25-29	H26-30	H27-31	H28-R2	H29-R3
H24-28 (H30年)	R2-6					
17.6	12.3以下	16.9	16.8	15.8	13.9	16.1

※自殺死亡率 人口10万人あたりの自殺者数。5年平均で表記しており、単位はありません。

2) 市が重点的に取り組むべき対象者

※出典：地域自殺実態プロフィール

H29年 (H24～28年)	H30年 (H25～29年)	H31・R元年 (H26～30年)	R2年 (H27～R1年)	R3年 (H28～R2)	R4年 (H29～R3)
高齢者 生活困窮者	高齢者 生活困窮者 勤務・経営	勤務・経営 高齢者 生活困窮者	勤務・経営 高齢者 生活困窮者	勤務・経営 無職者・失業者 生活困窮者	無職者・失業者 勤務・経営 高齢者 生活困窮者

3) 取り組み事業の評価状況

〔詳細〕資料5 (P.13～P.16)

【集計】令和4年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総 計	「◎」 当初の目標 値以上に実 施できた事 業	「○」 当初の目標 値どおり実 施できた事 業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らな かった事業	「×」 実施できな かった事業	「－」 測定不能の 事業
事業数 (割合)	35 (100%)	1 (2.9%)	29 (82.9%)	5 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)

コロナ禍で自殺者数が増加したこともあり、感染対策を講じながらも85%を超える事業で目標値以上または目標値どおりに実施した。目標値には至らなかった事業は、不特定多数を集める講座や講演会、コロナ禍で中止した事業の再開のほか、コロナを理由に目標項目とは別の方法で実施した事業であった。

(1) 重点的取り組み

小学校区単位でのゲートキーパー（命の門番）の養成

重点的取り組み 1	様々な分野でのゲートキーパー（命の門番）の養成							
高齢者の見守りや相談に関わる人に対してゲートキーパー養成講座を開催し、自殺対策の視点でも支援できる人を増やします。								
事業計画：小学校区単位でのゲートキーパー（命の門番）の養成								
	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
目標値	各小学校区累計 2人以上	→	各小学校区累計 10人以上	→				
実績	7 小学校区	8 小学校区	1 小学校区	2 小学校区				
評価	—	—	—	△				

実績：ゲートキーパー養成講座を実施 1回/12人養成
 累計養成者数10人を達成した小学校区 2小学校区

評価：計画通りに実施したが、目標値には至らなかった。

理由：感染対策として定員を50%程度の18人に制限して開催したことや、参加要請をしている団体が、平成31年度から大きく変化していないことから、興味を持っている人は既に受講済みとなっている可能性が考えられる。

今後：定員を増やして開催することを検討する。

全国的に小中高生等の若い世代の自殺が過去最多となっている状況にあることから、若い世代の見守りや相談支援が行える団体へも参加要請を行うなど、対象者を拡大していく。

「くらしと仕事のサポートセンター」の周知及び相談体制の充実

重点的取り組み 2	自殺のリスクを抱える可能性のある人への支援							
経済的・社会的困窮状態からの早期脱却を図るため、専門の相談窓口の紹介や相談者とともにプランを作成するなど、困窮状況に応じて自立に向けた支援を行います。								
事業計画：「くらしと仕事のサポートセンター」の周知及び相談体制の充実								
	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
目標値	事業の周知	「つなぐシート」の作成	「つなぐシート」の活用・連携	→	事業の周知			
実績	事業の周知	事業の周知 ※「つなぐシート」の作成は1年延期	「つなぐシート案」の作成・検討 事業の周知	「つなぐシート」の作成は中止 事業の周知は継続				
評価	—	—	△	○				

実績：事業の周知啓発を広報紙やホームページへの掲載、リーフレットの作成、関係機関との連携により実施した。

「つなぐシート案」の作成は、検討の結果、中止することとした。

評価：計画通りに実施することができた。

理由：令和3年度の『「つなぐシート」の作成については必要性も含めて検討する』という評価のもとで検討した結果、国に定められた様式を使用して、関係部署と連携する方法で不都合なく支援が行えているとの判断から、「つなぐシート案」の作成の中止することとしたため。

今後：国指定の様式を使用して継続的に関係部署と連携のもと相談支援を実施する。また、様々な方法で相談窓口の周知を継続し、相談しやすい体制づくりを行う。

(2) 実施したが、当初の目標値には至らなかった事業「△」(重点的取り組みを除く)

事業番号	事業名	評価の理由・改善点
16	こころの健康教室	計画通り実施したが、定員が目標には至らなかった。 教室等を1回開催したが、定員の8割以上という目標に至らなかった。
18	健康づくり講演会	受講者を増やすため、教室内容やテーマの検討、周知方法・開催日程等について検討・工夫を継続する。
26	子ども食堂・学習支援の活用	計画通りに実施したが、団体数は目標値には至らなかった。 コロナ禍で中止となっていた意見交換会(交流会)を再開することができたが、再開することのできない団体があった。 引き続き団体の運営支援を継続していく。
30	しろい高齢者みまもりネット	計画通りに実施できず、実施可能な他の方法により実施したため、目標値には至らなかった。 連絡会議については、コロナ禍の影響を考慮し開催せず、「お元気見守り通信」送付することで、見守り体制の維持を図った。 今後も連絡会議は年1回開催とし、協力事業者等に対し地域における高齢者のみまもりに関する情報提供等を行う。

4) めざそう値の達成に向けた評価状況

〔詳細〕資料6 (P. 4)

	総計	「達成」 目指そう値を達成している	「改善傾向」 現状値と比較し 3.0%以上改善している	「変わらない」 現状値と実績値との差が3.0%未満である	「悪化」 現状値と比較し 3.0%以上悪化している
めざそう値 (割合)	7 (100%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0%)
代替項目 (割合)	4 (100%)	3 (75.0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25.0%)
合計 (割合)	11 (100%)	8 (72.7%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和4年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

(1) 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取り組み	項目の種類	目標項目
3. 市民への啓発と周知	(2) 自殺や自殺対策関連事業などに関する正しい知識の普及啓発	代替項目	こころの健康教室・ゲートキーパー養成講座参加者のうち、参加前からゲートキーパーの言葉と意味を知っていた人の割合

6 第3次しろい健康プランの取り組みに対する意見

4計画	庁内健康づくり推進会議	令和5年6月20日、30日
健康増進計画	保健衛生事業計画医師会議	令和5年7月26日
食育推進計画	栄養士連絡会	令和5年7月31日
歯科口腔保健推進計画	保健衛生事業計画歯科医師会議	令和5年8月2日
自殺対策計画	自殺対策ネットワーク会議	令和5年8月10日

(1) 庁内健康づくり推進会議

テーマ	意見
① コロナ禍のマイナスイメージについて	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスク生活により口を動かす機会の減少。コミュニケーションが難しくなり、認知機能にも影響が出ている可能性がある。 ・グループ会食、飲み会、交流の場の減少により、精神的・社会的にコミュニケーション不足になっている。 ・リモートワークによる環境やライフスタイルの変化により肥満ややせが増えた。 例) 通勤しないことによる運動不足・いつでも食べられる環境→肥満生活・食事リズムの乱れ、共食の機会の減少→やせ ・交流の機会やコミュニケーションの減少によりメンタル面の健康度も低下し、ひきこもり、うつ病の増加。 ・若い世代の自殺の増加。SNSなどの相談窓口も増えた。男性の相談が少ない。 ・在宅時間の増加により、ストレスが増加し、DVや虐待が増えた。 <p><子ども></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や保育園での長期欠席の常態化(コロナが要因なのか見えない状態) ・体を動かす機会が減ったことによる運動能力の低下や、ゲーム時間・インターネット視聴時間の増加、それに伴う夜更かしと朝起きられない状態、朝食欠食が常態化した児童がいる。 ・学校や保育園等での歯科口腔保健指導(歯磨き・うがい)や食育の中止による口腔への意識の低下。 ・黙食など話す機会の減少により、コミュニケーションの機会が減った。 ・マスク生活の長期化により、マスクを外すことへの抵抗や不安が強い。 <p><高齢者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染による重症化を過度に心配し、家庭に引きこもり、認知面・身体面も機能低下してしまった人がいる一方で、自己ケアを実践している人もおり、健康状態が二極化している傾向にある。 ・高齢者の通いの場については、休止期間が長かったため、モチベーションの維持が難しく解散してしまった場所がみられる。 ・交流の場の減少により、高齢者のオーラルフレイル、引きこもりや外出控えによる孤立が増えた。 <p><障がい者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大のため事業所に通えなかった障がい者が、今でも元の生活に戻りきれないケースがある。家庭での生活が長くなると、虐待などの相談も増える傾向にある。 <p><生活困窮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大のために仕事を辞める・休まざるを得なくなり、経済的に困窮しているという相談が、庁内各所の相談窓口でみられた。

テーマ	意見
<p>② コロナ禍のプラス面の影響について</p>	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会、研修、診療などのオンライン化が進み、それを活用できるようになった。 ・オンラインの活用によって、今まで会うことが難しかった人に会えるなど、対面だけでなく交流する方法の選択肢が増えた。 ・リモートワーク等の普及により、時間に融通の利く人がボランティアや民生委員といった市の活動に参加してくれるようになった。 ・市の事業においてもオンライン化が進み、アーカイブ配信も利用できるようになったため、今まで時間の関係上参加が難しかった人が視聴してくれるようになった。 ・スーパーなど密になる場所を避けるため、無人直売所の利用者が増え、地産地消につながった。 ・ニート・引きこもり相談を利用する人で、ゲームやSNSで共通の趣味を持つ人とつながりができたと話す人が増えた。 <p><子ども></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの手洗い・清掃・消毒・咳エチケットが習慣化し、感染症全般の予防対策になっている。 ・児童生徒が1人1台タブレットを持つようになったことにより長期欠席の子どもが授業に参加できるようになった。 ・黙食をしたことにより、子どもが食事に集中する習慣が身につき、味わうことを覚える、咀嚼に集中することにつながった。
<p>①と②を踏まえ、今後の計画の取り組みに活かすアイデア</p>	<p><講座></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にオンラインを活用して、働き世代が参加しやすい夜間講座、短時間連続講座などを実施する。 ・YouTube 配信などを継続する。 ・職員向けの研修に心の健康を入れる。 ・オンラインが活用できると活動範囲が広がるため、オンライン研修会などを企画する。 <p><健康づくりや交流の場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な仲間と参加できる場を増やすなど、市民が継続的に健康づくりに取り組めるような環境づくりを整備する。 ・外に出ることを動機づけとなるような講座を企画する。 ・幅広い年代が参加できるような公園での健康づくりの方法を提案する。 (例：ラジオ体操や清掃活動など) ・敬老会や子ども食堂など、食事をとる場を再開して共食を促し、対象を高齢者や子どもに限定しないことで、世代間交流を図る。 ・5類移行後に交流・体験型講座の参加者が増えている。各センターや自治会館など、もっと市民が参加しやすい場所を実施する。 <p><子ども></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健指導など、学校教育の場での指導にタブレットを活かした内容を取り入れる。 <p><周知・啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の SNS (インスタ、LINE、twitter 等) を積極的に活用する。 ・他課の事業や市民団体の活動に向いての周知・啓発をする。 ・摂取カロリーのわかるアプリの活用やスマートウォッチで運動量を確認するなど、新たな自己管理方法の啓発を行う。

(2) 保健衛生事業計画医師会議

テーマ	意見
計画の評価全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実績の表について、もっと検討した内容を記載した方が良い。 ・ゲートキーパー養成講座等において、現状値より参考値が低くなっているのに評価が甘すぎと感じる。
健（検）の受診率について	<ul style="list-style-type: none"> ・白井市は船橋市と比べると大腸がん検診や乳がん検診の受診率が低い気がする。対策として大腸がんは便潜血2回法を提出するだけで簡単に検査ができることを強くアピールしてはどうか。 ・2年経ったら通知送付をしないと、検診があることを知らないまま経過してしまう可能性がある。そのため、受診率向上と認知度を高めるためにも、2年経過後も通知を行ってはどうか。
情報配信について	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトを上手く使う方法も是非加えるべきではないか。YouTubeで体操など配信しているが画像が悪く、市でスタジオを作り、そこで動画を作成し活用してはどうか。 ・高齢者への情報発信のアプローチとしては、本人に向けて情報を出すというのが良いと思う。 ・例えば年度当初に、あなたはこの検診の対象だという事が分かる予定リストと受診したい場合の方法を記載したはがきを全員に送るなどしてはどうか。 ・情報が届かない人へ情報を届けるといってメディアを活用するのも一つの方法である。
<p>生活習慣や健（検）診受診行動などの指標が悪化したことへの対策について</p> <p>令和4年度の実績により、生活習慣や健（検）診受診行動などの指標に悪化傾向が見られました。この状況を改善するための配慮や工夫について、助言をお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院でロコモティブシンドロームの市民講座を行っていたがコロナの影響で現在行っていない。整形外科で骨粗しょう症の勉強会もやっているのでも、市民講座ができたらと思っている。 ・小中学生で朝食の欠食や肥満・やせの指標が悪化とあり自分の印象としては、肥満が多いと思った。また、中学校の健診では中性脂肪が40かそれ以下の生徒が15人位おり逆もいる。コロナの影響で食生活が乱れたりしているのが原因ではと思う。学校レベルで養護教諭と連携しながらまた市民講座のどちらかでアプローチしていければと思うが、何か良い対策があればできると良い。

(3) 栄養士連絡会

テーマ	意見
<p>コロナ等により市民の健康に影響が出た「めざそう値（代替項目含む）」に関する改善策について</p> <p>令和4年度の事業実績では、約7割が計画どおり実施しているにも関わらず、めざそう値及び代替項目は、朝食欠食などの食習慣や肥満ややせなど適正体重に関する悪化の割合が高い状況にありました。</p> <p>これらを改善する取り組みや提案などについてご意見をお願いします。</p>	<p><朝食欠食、よく噛んで食べる（小中学生）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠食理由は、時間がないことが大半だが、親が作ってくれないという低学年の声があったため、食育通信で手軽に食べられるレシピなどを掲載する。高学年は、タブレットが配布され、夜遅くまでネットなどを閲覧してしまう児童がいるため、生活リズムも含めて指導が必要。 ・先生や保護者も含めた啓発を行いたい。 ・学校の保護者会などで、作成した動画などを見てもらうとよいのではないか。動画は1度作れば、繰り返し使うことが出来るので、様々な機会を活用できる。 <p><BMI 25以上（成人）・20以下（高齢者）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診会場や集団指導での肥満予防、通いの場での低栄養予防でさらなる啓発を行う。
<p>食育に関する新規啓発について【重点的取組1】</p> <p>第3次しろい健康プラン策定に向けた市民アンケートで、高校生はBMIと自分の体型への理解のずれ、基本的食生活は概ね良好だが、減塩や早食いなど生活習慣病予防の食事に対する意識の低さなどの課題がありました。</p> <p>若い世代は、欠食・バランス・野菜不足・早食い・減塩・夜食・間食等の食生活全般に対する意識の低さ、男性の食の乱れなどの課題がありました。</p> <p>今後、新規啓発を行うにあたり、効果的な方法についてご意見をお願いします。</p>	<p><高校生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が利用するお店や駅などに依頼し、QRコード付きポスターを掲示し、QRコードから、HPや動画などにつなげて啓発を行うとよい。 ・なし坊ツイッターやかおりインスタなど、高校生が目にするSNSを活用するとよい。 ・白井高校へのリーフレット配布や、高校との連携、高校生と企画を考えるのもよいのでは。 ・実行しやすい取り組みとして、高校に上がる前の中学3年生に啓発を行うとよい。 <p><若い世代></p> <ul style="list-style-type: none"> ・忙しい若い世代は、よく利用するコンビニに協力依頼し、朝食を食べる啓発などをするとよい。 ・子育て中の若い世代は、保育園・学校に啓発物を依頼したり、20～30代対象の既存事業を活用するとよい。 ・若い人は自身が健康と思っているため、健康メインとせず他部署と連携した交流の場などを活用する方法もある。

(4) 保健衛生事業計画歯科医師会議

テーマ	意見
<p>歯周疾患検診受診率について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県の目標値や近年の実績を参考に市の目標値を設定しているとのことだが、令和4年の実績値はとても低いと感じる。もっと高い目標値を設定するなど、根本的な変革が必要ではないか。
<p>よい歯のコンクール（親と子の部・高齢者の部）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれつき歯の本数が少ない子もいるため、身体の特徴に優劣をつけることは昨今の潮流にそぐわないと感じる。 ・歯科医師会がコンクールを開催するから市も募集をするのではなく、市の判断で止めてもよいのではないか。
<p>成人期に関する項目の悪化を改善するための取り組みについて</p> <p>令和4年度の実績より、成人期における「歯周疾患の予防」に関する項目に悪化の割合が多くみられ、コロナの影響を受けている可能性が考えられます。この状況を改善するための配慮や工夫について、助言をお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の家族を自宅で介護をしているケースが非常に多いと感じている。 <p>以前は問題なく定期来院していた方が一年後に久しぶりに受診されたところ、歯が全てう蝕により喪失していたケースや、一年間ずっと義歯を装着したままで口腔内環境が劣悪なケースがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族による介護となると、なかなか歯科口腔に関する知識が乏しく、検診を受診する意識も低いと推測するが、そういった在宅介護者を拾い上げることができれば「歯周疾患の予防」に関する項目は改善するのではないかと考える。

(5) 自殺対策ネットワーク会議

テーマ	意見
<p>コロナ禍でのマイナス面、プラス面を踏まえて、取り組みに活かすアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の必要性を改めて感じる。若い世代が高齢者の話を聴くだけでなく、高齢者が若い世代の生活を聞くことも楽しみである。 ・地域の祭りなど、コロナ禍で中止していたイベントなどが再開してきている。高齢者だけ、若者だけでは再開に困難があるが、同じ目的をもって交流することで互いの力を引き出せていると感じている。 ・オンラインが進んだが、会議やイベントなども対面が大切。必要の可否を改めて見極めること重要。 <p>生活困窮は大人だけの問題ではなく、高校を卒業後、間もなくして困窮する人もいる。高校との連携・交流を図れたら良い。また、就職できない事情がある人の行き場があるとよい。</p>

テーマ	意見
<p>ゲートキーパーの言葉と意味の認知度を上げるために実施できる・実施している取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生等を対象に講師の派遣等は可能か。いつ悩みを抱えた人に出会うか分からないので、ゲートキーパーになろうという使命をもって受講するだけでなく、「聞いたことがある」というところから始まって良いのではないか。 ・ 市内の企業から人を集めて講座を実施してはどうか。産後うつの問題もあるため、妊産婦が集まる場所で話をしたり、チラシを配布しても良いのではないか。出産した人へ渡すセットの中へ、『いのちの電話』のリーフレットを入れたいと相談を受けたこともある。